

プロローグ

「わあい、いろんなおともだちがいっぱい！」

「くっふふ、それじゃあザコ戦闘員さん達に手伝ってもらってみんなに洗脳ロリポキャンディーいっぱい配っちゃおう！」

「まじかる、まじかる♡ ばつとりつく♡ まっどすいーっ♡ チェンジアップ！」

「んふふー、悪のメスガキ怪人、ミミだよ」

「あれー、そこのおじさん。ミミのこと見つめちゃってー」

「おっきなミミのおっぱいを強調してくれてるボンテージラバーのスーツに、可愛いミニスカっ、気に入ってくれたのかなー」

「こうやって、くるるって、ターンするだけでほら中身が見えちゃうんだよ」

「あー、今、ミミのショーツ、見ちゃったよね、くすす」

「こんな子供で興奮するなんてへんたーい」

「ミミは、ザコっちい、おにーさんたちみたいなたちを洗脳ロリポキャンディーで、悪い子に洗脳しちゃって」

「何でも言うこと聞いてくれる楽しいお友達にしちゃうんだー♡」

「あ、逃げちゃだめだよ。まあ、にげてもー、このハッピーロリポキャンディー銃で……」

「しょっと♡」

「あは、もっといっぱい、あまーいキャンディー撃ち込んであげる」

「とどめに、お口の中にしょっと♡ どう？ とっても甘くて、とろけて、頭の中惚けちゃうくらい美味しいでしょ？」

「ミミの洗脳ロリポキャンディー♡♡♡」

「いっぱい舐めて、ザコ戦闘員たちみたいなのミミのお友達になっちゃってね？」

「おともだち、せんのうちどれいって言うんだよね。今までさらってきた人たちもミミのロリポキャンディーだけあれば幸せって奴隷さんに喜んでなってくれるんだ」

「それじゃあ」

「いい子も悪い子も、ミミの洗脳ロリポキャンディーで頭蕩けて、どれいさんになっちゃえ！」

シーン2 ミミとHなヒーローごっこ

「くすすつ、気がついたみたいだね、お兄さん」

「ここはミミの隠れ家」

「おにーさんったら、仰向けのまま気を失ってて」

「全然、気が付かないし♪」

「ミミが腰の上に乗ったら、やっと起きたよね」

「んふふ、もう目は覚めたかなあ？ 何よミミの胸のあたり、じいっと見て」

「んふふ、子供っぽいって言われるけど、おっぱいは結構大きくてえ、そこがいいって喜ぶ大人の人多いんだよ？」

「まさかー、ヒーローのお兄さんはこういうたゆんたゆんで、ぷにぷにのおっぱいのちっちゃい子供に欲情しないよね？」

「しない？ ほんとかなー……それじゃあ、お兄さん、ヒーローごっこしよ」

「お兄さんはもちろんヒーロー、で、ミミが怪人役だよ」

「ヒーローは怪人の攻撃に耐えないとだめなんだよ」

「じゃあ、怪人のミミがお兄さんにエッチな攻撃を仕掛けちゃう。このままミミのお股をお兄さんの太腿にこすりこすり、こすりこすり、擦りつけちゃうよ♪」

「あれれ、どうしたの？ 腰をビクビクさせて、もう感じちゃってるの？」

「勃起しちゃったりなんて、してないよね？　ねっ？」

「お兄さんはミミみたいな女の子とのヒーローごっこで勃起するような変態じゃないもんね、んふふ」

「ん？　どうしたのもじもじして？　あゝ、ズボンの股のところ、どうして膨らんでるの？　ここよ、ここ。ミミがこゝすこすしてる、ところ♪」

「くすす、こんなに腫らして、ミミが勃起してるかどうか確認してあげるね」

「ほら、ズボンのチャックをおろして、っと」

「ああ、おっきなおチンポ、出てきた♡」

「ガチガチに勃起させて、先っぽからカウパー溢れさせてる……こんなヒトが正義のヒーローやって、しかもミミのおじさんだなんてミミ、恥ずかしくなってきた……」

「この節操のないチンポ、ミミの手でコキコキしたら、どうなるのかな？」

「おててでぎゅうって握って、ほら、こゝすこす、こゝすこす♪」

「抜くたびにエッチに震えて、こんなに感じちゃうんだあ？　お兄さんのオチンポ、本当にザコすぎだし。怪人の攻撃に、簡単に屈しちゃったらだめだよ？　くすすっ」

「手コキだけで、いっぱいカウパーお漏らししちゃってるし。もう射精寸前って感じだよお、くすすっ」

「ザーコ、ザーコっ、へなちよこのザコチンポっ♪」

「じゃあ、チンポをしこしこするのはちよっとお預け。お兄さんの胸をはだけさせて、んしょ、んしょつと、今度はこっちの乳首をいじってあげるね♡」

「両方の乳首の先っぽを指先でこりこり、こりこりッ♡」

「んふふ、どう、感じたら、声出してもいいんだよ」

「エッチな声出したら、お兄さんは乳首で気持ちよくなっちゃっ♡」

「速攻、マゾ確定だけどね。くすすっ♡」

「あ、お兄さんの乳首、だんだん大きくなってきてるよお♡」

「ほら。指先でこりこり、こりこりッ♪」

「あゝあ、やっぱり乳首、感じちゃってる♡」

「ミミ、しってるよ。こういう子供、メスガキに負けて喜んじゃう人、マゾっていうんだよね。お兄さんザコでマゾってあはは！」

「あれー、まだ負けてないつもりなんだ」

「それじゃあ、指だけじゃなくて今度はミミが舐めなめしてあげるね」

「んちゅ、れろろ、左の乳首から、はふうっッ、れろろ、れろろッ♡」

「ちゅぱっ、ちゅっ、ちゅぱ、ちゅぱッ♡」

「んふう、乳首が震えて、感じてるの舌に伝わってくるね、んふう♡」

「次は右の乳首も♪ ふふう〜ッ、んちゅ、ちゅぱッ♡ れろ、れろろろッ。んちゅぱっ、んちゅ、ぢゅぱッ、はふ…♡」

「こっちの乳首も、しっかり勃起しちゃったね♡」

「これからが本番だよ。メスガキ怪人のミミが本格的に洗脳調教してあげる」

「お兄さんに耐えられるかなあ、くすすッ」

「頑張って耐えて、正義のヒーローらしいところ、見せてね♪」

「仰向けでー、寝たままでー、抵抗できないざーこなお兄さんに何すると思う？」

「お兄さんの首あたりにまたがって、んしょ、んしょっどッ、ショーツの生脱ぎだよお、あふう、すっごいガン見してる」

「ちよっど、見すぎだよお♡」

「んふう、ミミのおまんこだよ♡」

「すっごいお兄さんがじろじろ見るから、興奮して濡れてきちゃった♡」

「ほら、奥からお汁があふれて、んふううッ、垂れてきてるのわかるよね」

「脱いだショーツはきゅっと丸めて、マズなお兄さんのお口へッ♡」

「メスガキ怪人ミミの必殺技っ♪ ミラクルレインボーおパンツ、アターック♪」

「えい、えいッ。ほらあ、しっかり啜えてね♡」

「息ができない？ そんなのミミ知らないもん♡」

「そのままミミが、んしょっと、姿勢を変えて……っ♡」

「お兄さんに寄り添いながら……乳首舐めなめ、オチンポこきこき♡」

「同時にしてあげるね、くすすすっ♡」

「ちょっとオチンポにぎっただけで、また大きくしてる♡」

「もう、節操なさすぎの、よわよわチンポじゃない♡」

「ほら、こうひて、乳首舐めながら、んじゅれろろ、オチンポたっぷり扱いてあげる」

「どこまで我慢できるかなあ、左の乳首からあ、んちゅ♡ ちゅぱちゅぱ♡ んちゅぱ♡」

「舐めるだけひゃなく、れろろ♡ 左の乳首の先、甘く噛んであげるね♡」

「んふうう、はむう、はむはむッ、あんッ、今、ビクッとして変な声出したよね、お兄さんやっぱりマズ

♡ それもザコいマズだね♡」

「しこしこ、しこしこッ、オチンポもヒクついて限界みたいだよ、ちゅば、ちゅばッ♡」

「はふう、ほら、しこしこしながら、今度は右の乳首を舐めなめ、するよ」

「んちゅ、ちゅぱッ、はふうう♡ れろお♡ れろろッ♡ んじゅっるはふう♡」

「つゆだくで舐められるの感じちゃうの？ オチンポもびっきびきだよ、んちゅばっ♡」

「右の乳首もっといじめて欲しいの。黙り込んでても、わかるんだよ♡」

「ほら、右も乳首の先も、あむうッ、甘く噛んであげるね♡」

「んふ、はむッ♡ はむッ♡ はむむうッ♡ んんッ♡ 感じてるの丸わかり♡」

「ミミのおてでシコシコしてるチンポ震えてるし、顔にも出てるよ♡」

「ほらあ、胸はむはむされながら、しこしこしこ♡ しこしこしこッ♡」

「くすす、もう精液出しちゃうの、お兄さん♡」

「ミミみたいなメスガキ怪人に負けちゃうんだあ？」

「このままミミのおまんこに、お兄さんのオチンポ入れたら、どうなっちゃうのかな、くすす、ミミ、興味あるかも」

「んん、あふう、ほら、い、入れるよお♡」

「正義のヒーローさんのオチンポっ、ミミのきつきつまんこで丸呑みしちゃう♡」

「んはあああ、あふう♡ んうくう♡ 奥まで… あんんッ、ほおら、入っちゃった♡」

「あれ、どうしたの？ くすすっ、もしかして、声も出ないんだあ？」

「あはああ、ミミのロリなキツマンコに挿入してすぐに射精しちゃうかと思ったけど、んん♡ あはあッ



♡ 結構頑張ってる♡

「オチンポをおまんこで啜えこんだまま、どこまで耐えられるかなあ♡」

「腰をゆっくりと動かしながらあ、乳首舐めちゃよお♡」

「左の乳首も、んちゅ、ちゅぽ♡ んちゅッ♡ れろろッ♡ はふうう♡」

「それから右の乳首も、んちゅぽッ、んちゅッ♡ ちゅぽ♡ れろ♡ んちゅるッ♡」

「はふうう、オチンポも、んううッ、ミミのあそこの中で大きくなって……んんううッ、エッチすぎ。これだけ我慢効かないのに、よく正義の味方でできてたね♡」

「あふ、あふうう……腰もつと動かしながら、乳首舐め舐めしちゃうよ♡」

「んちゅぽッ、れろろ、ほら、見てよ。ミミの柔らかい胸を当てながら、乳首をんちゅ、れろろ、れろッ、なくめなめ、なくめなめ♡」

「あはッ、声出てるよ、ヒーローの時と全然違うお似合いの声♡」

「ひいひい自分で言ってるの、気づいてた？ 無意識に声出ってたんじゃない？」

「くすすすっ、お兄さんってばザーコ。ザコザコザコっ、ザコすぎ♡」

「メスガキ洗脳怪人のなめなめ乳首攻め攻撃でおちんちん敗北しちゃうの？」

「ほらほらあッ、もつと頑張つてよ♡」

「そのまま舌を、れろろッ、お兄さんの首筋に這わせて、んじゅるれろろ♡」

「ほらあ、んちゅ、ちゅぱッ、首のあたりも感じるよね？」

「お兄さん、マゾだから、どういうトコが感じるか、ミミにはわかつちゃうんだよ」

「……はふっッ、ほら首筋に、それから耳元に息吹きかけちゃうよお」

「はふっッ、はふっッ、ぷっ、くすくすッ♪」

「お兄さん、ちょっと耳を刺激されただけで、女の子みたいな顔して感じちゃってるよ」

「……ねえ、ミミのまんこでくちゅくちゅしてあげてるオチンポ、もう、負けちゃいそうなんじゃないの？」

「……ほら、我慢するのやめて、お兄さんも腰振って、ミミのおまんこの気持ちよさをたっぷりと味わえばいいじゃない？」

「お兄さんも正義の味方やめちゃってさ、ミミみたいに悪い子になっちゃえばいいんだよ♡」

「ほら、もう降参しちゃえッ♡ ほらほらほらあ♡」

「ミミのおまんこにたつくさんザーメン射精ッ、しちやえッ♡♡」

「ほらほらほらあッ、ミミのおまんこで。たっぷり♡ 精液バキュームしてあげる♡♡」

「んはああ、あはああッ、もうあきらめて、びゅくびゅくびゅくッ♡ びゅくるるるるって、出しちゃえッ♡ 出しちゃえッ♡♡」

「敗北射精ッ、負け射精ッ、しちやええ——ッ♡♡♡」

「あん、あんんんッ、どろどろの精子、んはああああッ♡ ミミのおまんこに、たっぷりお射精できたね、お兄さんッ♪」

「んはあ、あはああつ、まだ出てるのッ♡ 本当にお兄さんの射精ッ♡」

「節操なさすぎ、自分で我慢できないところは、チンポもお兄さんも、一緒だね♡」

「あはあああ、熱いッ、メスガキ怪人におおられてまた出しちゃうなんて、ほんとざーこ。なお兄さんだね」

「そんなに、負けるの気持ちよかった？ くふふっ♡」

「ま、ザコのお兄さんにしては楽しめたよ。んふふふッ♪」